

無痛分娩に関する 医療機関実態調査の結果について

1 調査の背景と目的

- 無痛分娩に関する社会的関心の高まり
- 全国的に無痛分娩の実施率が増加傾向、安全な実施が一層求められる
- 無痛分娩体制の現状把握

2 調査概要

- 調査対象 県内分娩取扱施設（助産所を除く）
- 調査期間 令和7年6月12日～7月31日
- 調査対象施設 27施設（R7.4.1時点）
- 回答施設数 27施設
- 回答率 100%

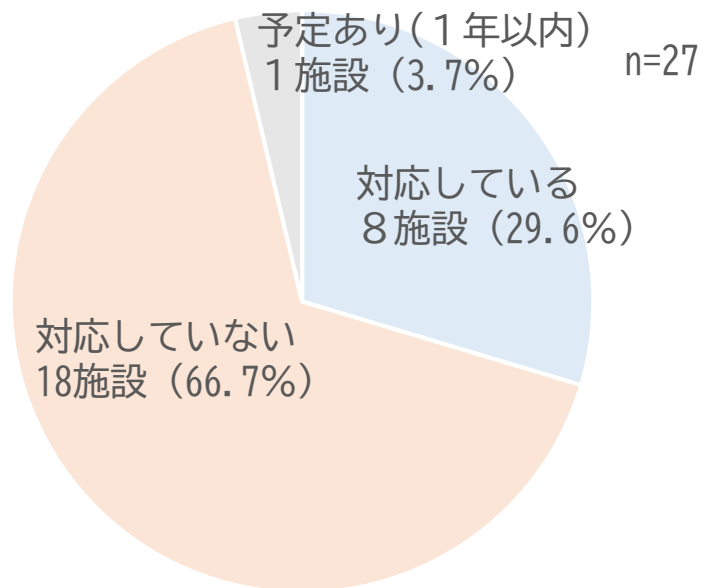
<目次>

1. 無痛分娩の対応状況	・ ・ ・ ・ 4
2. 無痛分娩を対応しない理由	・ ・ ・ ・ 4
3. 無痛分娩の適応	・ ・ ・ ・ 5
4. 無痛分娩の費用	・ ・ ・ ・ 5
5. 令和6年度の無痛分娩件数	・ ・ ・ ・ 5
6. 自主点検表(※)の各項目の充足状況	・ ・ ・ ・ 6～8
7. JALAの講習会受講状況	・ ・ ・ ・ 9
8. NCPR・J-CIMELSの受講状況	・ ・ ・ ・ 10
9. 安全性確保に必要な事項	・ ・ ・ ・ 11

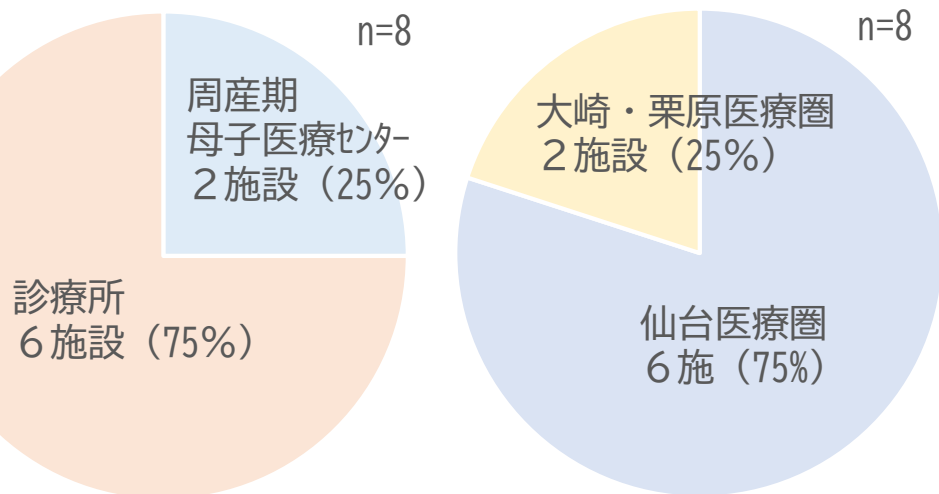
※無痛分娩取扱施設のための「無痛分娩の安全な提供体制の構築に関する提言」に基づく自主点検表
(平成30年4月20日付け医政総発0420第3号・医政地発0420第1号
厚生労働省医政局総務課長・医政局地域医療計画課長連名通知)

1 無痛分娩の対応状況

- 無痛分娩に対応している施設は8施設(29.6%)
- 1年以内に開始する予定のある施設は1施設
- 無痛分娩対応施設の7割以上が仙台医療圏

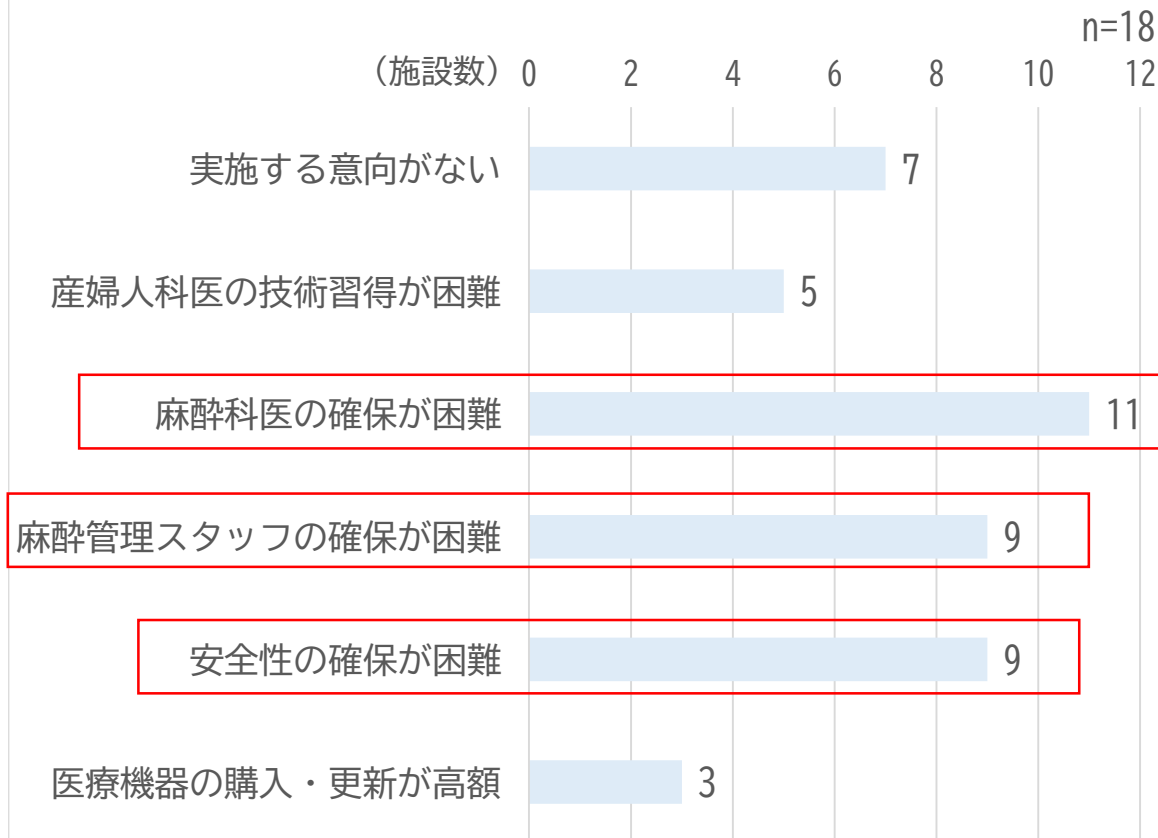


対応施設の内訳



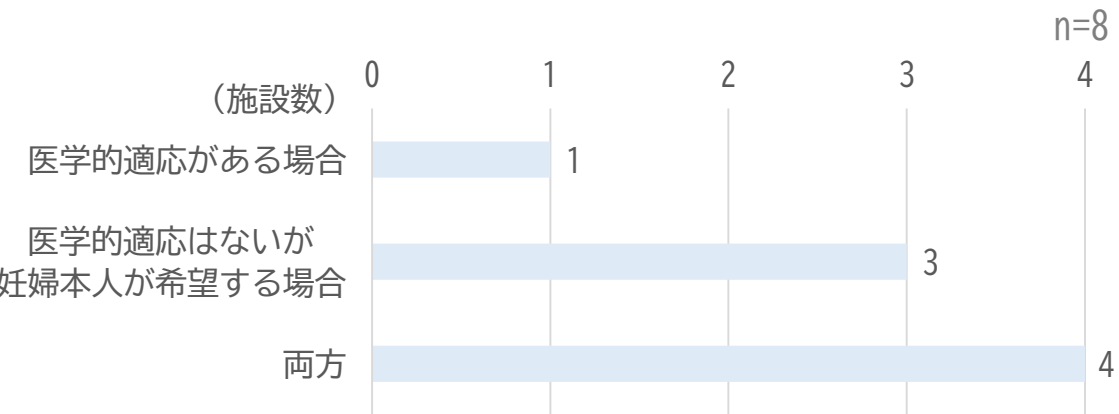
2 無痛分娩を実施していない理由 (複数回答)

- 実施していない施設の理由として、「麻酔科医の確保が困難」、「麻酔管理スタッフの確保が困難」、「安全性の確保が困難」と回答した施設が多かった



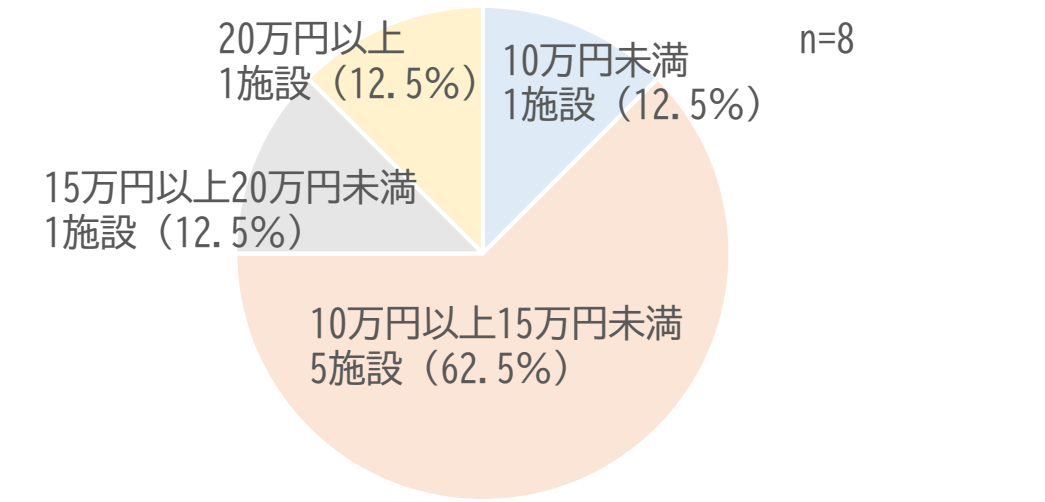
3 無痛分娩の適応について

- 妊婦の希望による無痛分娩に対応する施設は7施設
- 医学的適応がある場合のみ対応する施設は1施設



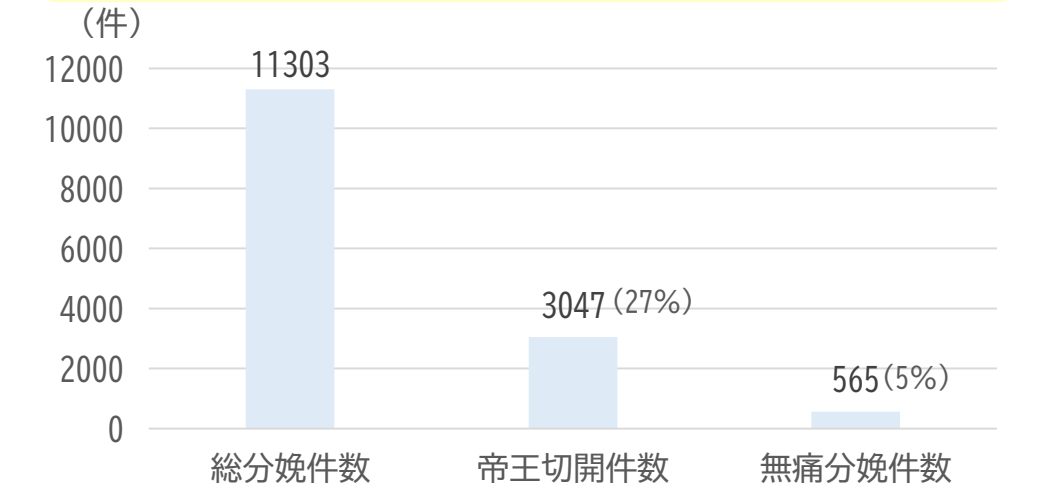
4 無痛分娩費用

- 無痛分娩費の平均額は125,000円
- 10万円以上15万円未満が5施設で最も多い

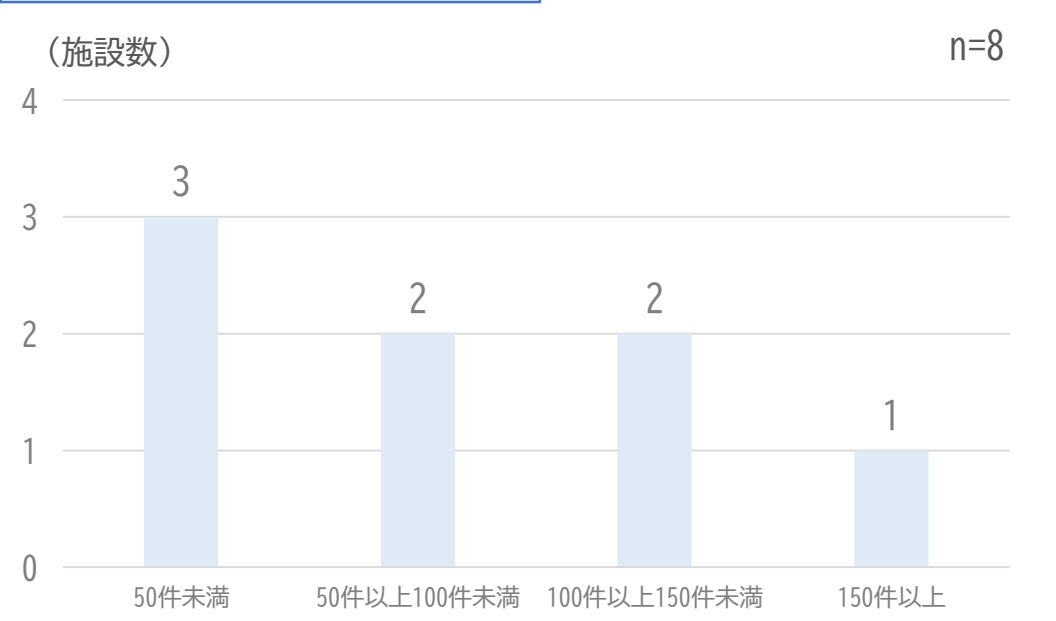


5 令和6年の無痛分娩件数

- 令和6年の無痛分娩件数は565件で、全体の5%
- 施設別の件数は、50件未満が3施設で最も多い

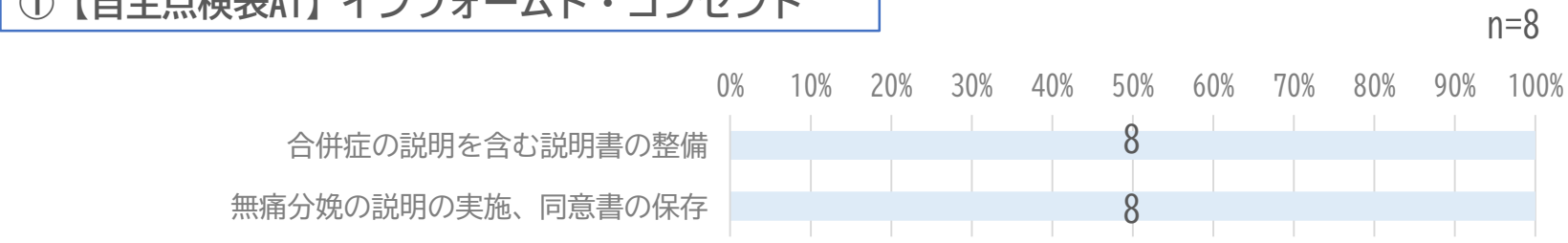


施設別の無痛分娩件数

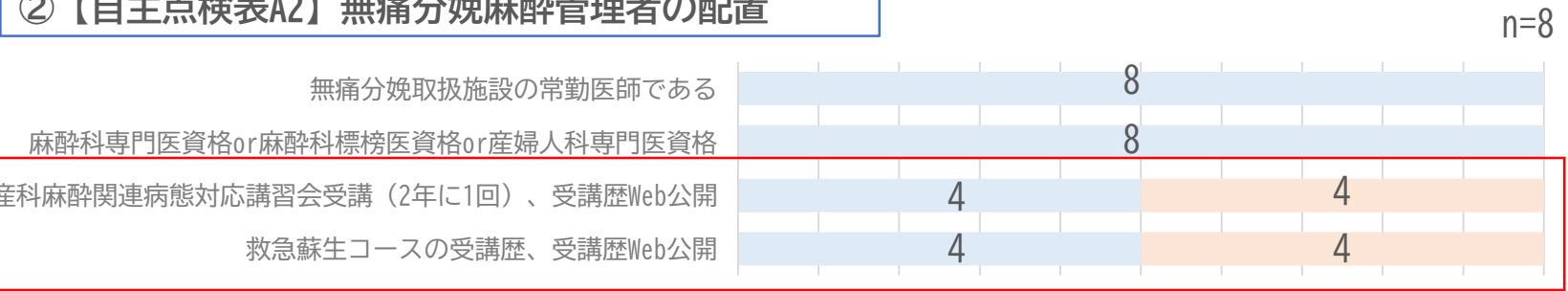


6 自主点検表の各項目の充足状況

①【自主点検表A1】 インフォームド・コンセント



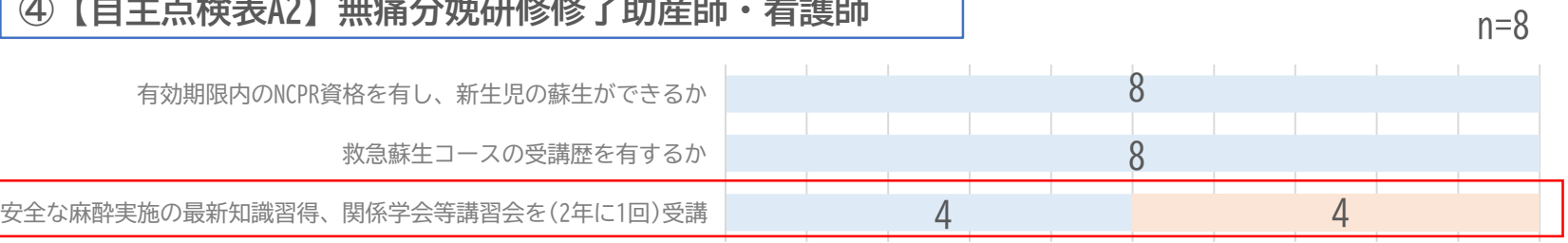
②【自主点検表A2】 無痛分娩麻酔管理者の配置



③【自主点検表A2】 無痛分娩麻酔担当医



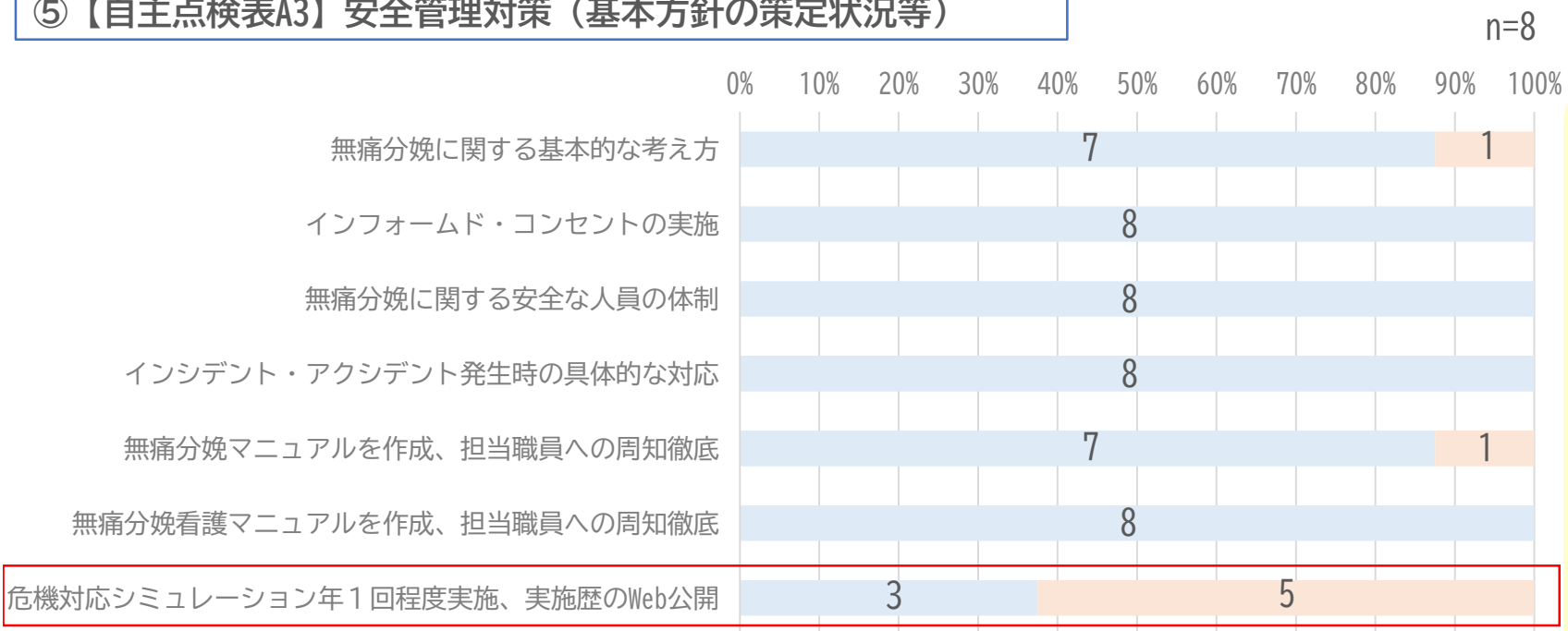
④【自主点検表A2】 無痛分娩研修修了助産師・看護師



- ①インフォームド・コンセントの項目は、全ての施設で充足できている
- 人員体制については、②麻酔管理者の「産科麻酔関連病態対応講習会」・「救急蘇生コース」の項目を充足している施設は、半分であった
- また、③麻酔担当医について、特に「麻酔科研修歴及び麻酔実施歴、無痛分娩診療歴等の情報公開」の項目を充足できていない施設が6施設（75%）と多かった
- ④助産師・看護師の「安全な麻酔実施の最新知識習得、関係学会等講習会の受講」の項目を充足できている施設は、半分であった

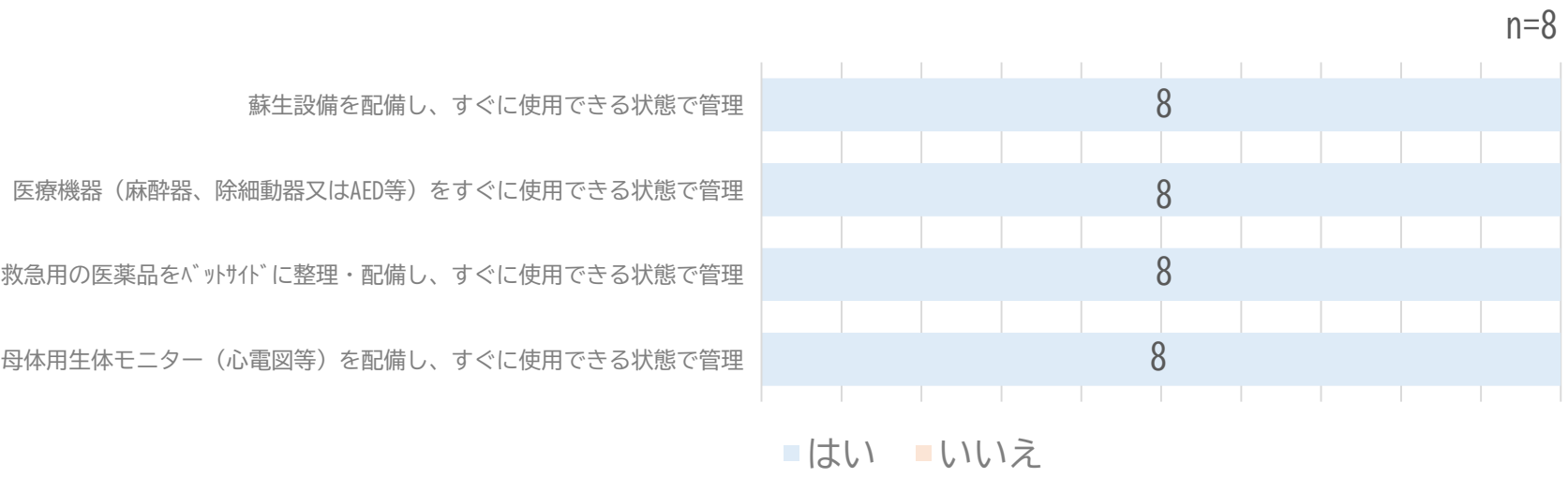
6 自主点検表の各項目の充足状況

⑤【自主点検表A3】安全管理対策（基本方針の策定状況等）



➤ ⑤安全管理対策について、各項目とも85%以上の施設が充足できているが、「危機対応シミュレーション」に関する項目について、充足できていない施設が5施設（62.5%）であった

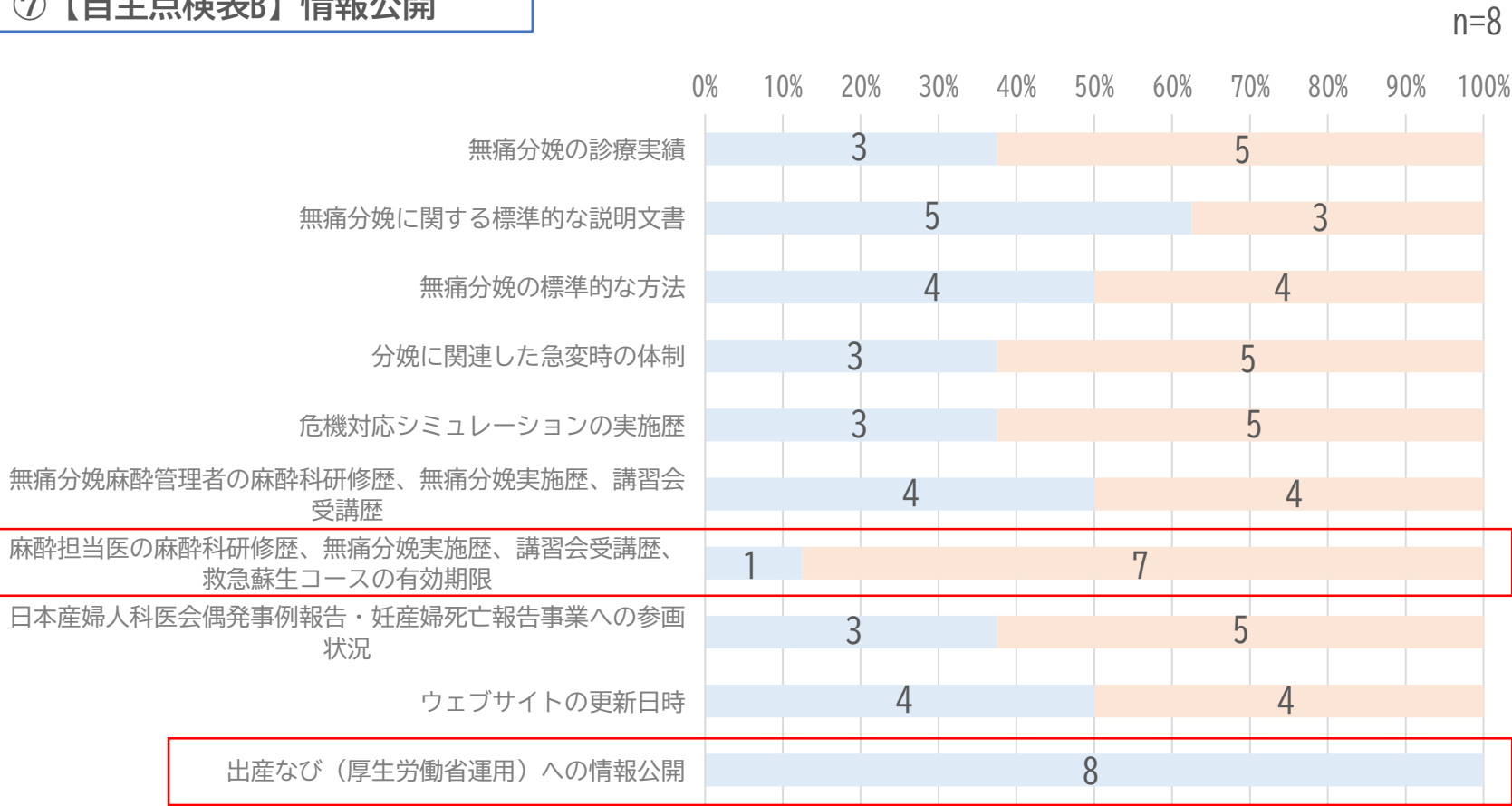
⑥【自主点検表A4(1)(2)(3)】蘇生設備及び医療機器等の配備・管理



➤ ⑥蘇生設備・医療機器等の配備・管理については、各項目とも全ての施設で充足できている

6 自主点検表の各項目の充足状況

⑦【自主点検表B】 情報公開



- ⑦情報公開について「出産なび」については全ての施設で公開している。
- また「無痛分娩に関する標準的な説明文書」については5施設（62.5%）で公開している
- 一方で、上記2項目以外を公表している施設は、半分以下となっており、特に「麻酔担当医の麻酔科研修歴、無痛分娩実施歴、講習会受講歴、救急蘇生コースの有効期限」について、公表されていない施設が多かった

⑧【自主点検表C】 インシデント・アクシデントの収集・分析・共有

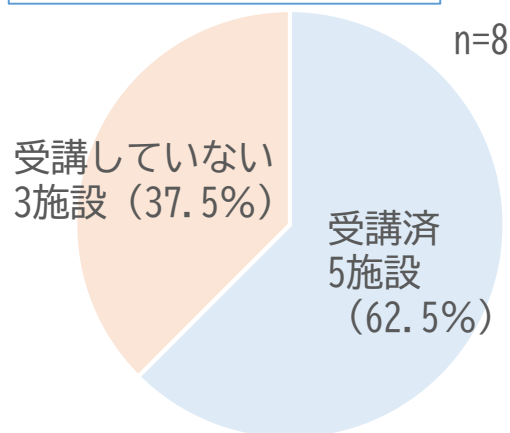


- ⑧インシデント・アクシデントの収集・分析・共有については、7施設（87.5%）の施設において充足できている

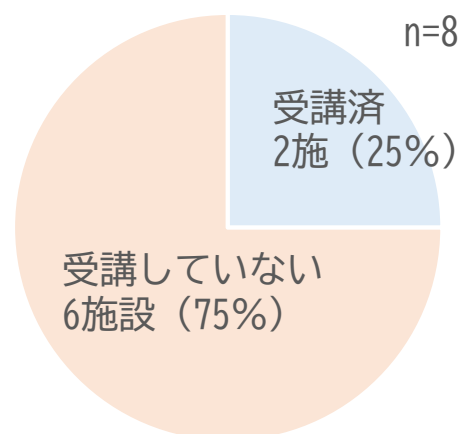
7 JALAの講習会受講状況（医師） カテゴリーA・B・C

- 講習会のカテゴリーB・Cを受講していない施設は6施設（75%）

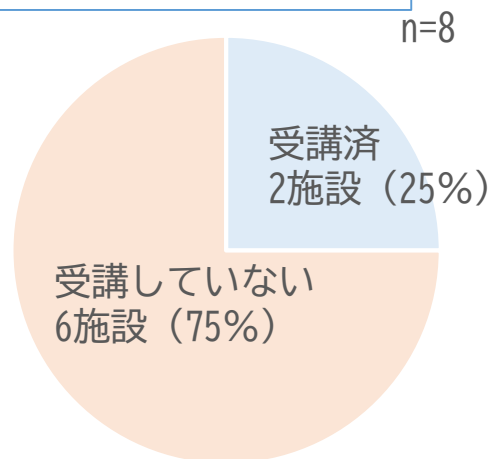
(1)カテゴリーA



(2)カテゴリーB



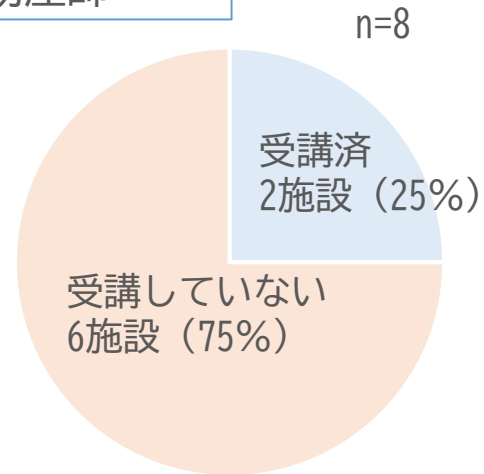
(3)カテゴリーC



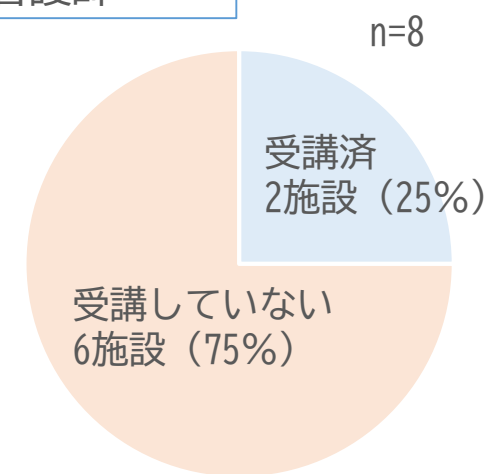
7 JALAの講習会受講状況（助産師・看護師） カテゴリーD

- 助産師・看護師ともに、講習会を受講していない施設は6施設（75%）

助産師



看護師

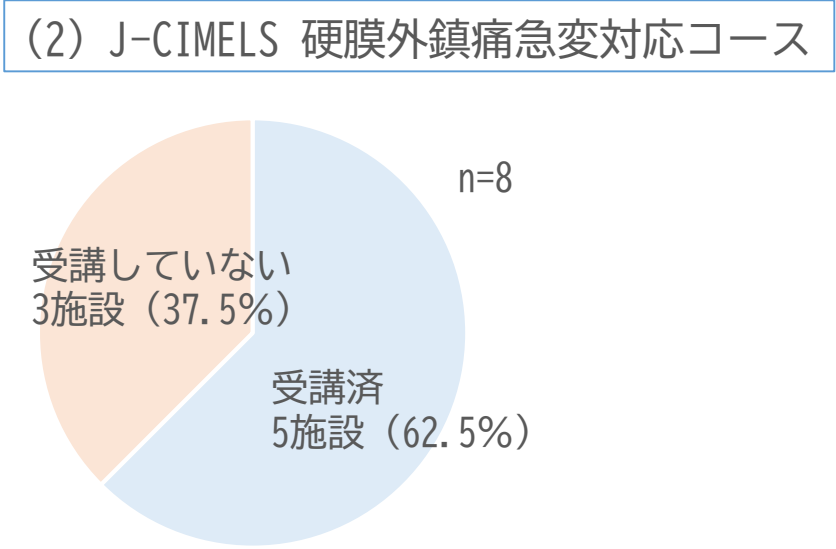
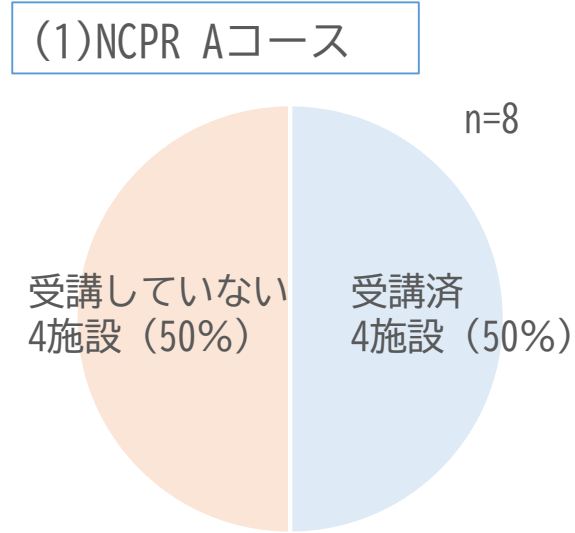


（参考）無痛分娩の安全の診療のための講習会（JALAホームページ抜粋）

カテゴリー	講習会内容
A	安全な産科麻酔の実施と安全管理に関する最新の知識の修得及び技術の向上のための講習会
B	産科麻酔に関連した病態への対応のための講習会
C	救急蘇生コース
D	安全な産科麻酔実施のための最新の知識を修得し、ケアの向上をはかるための講習会

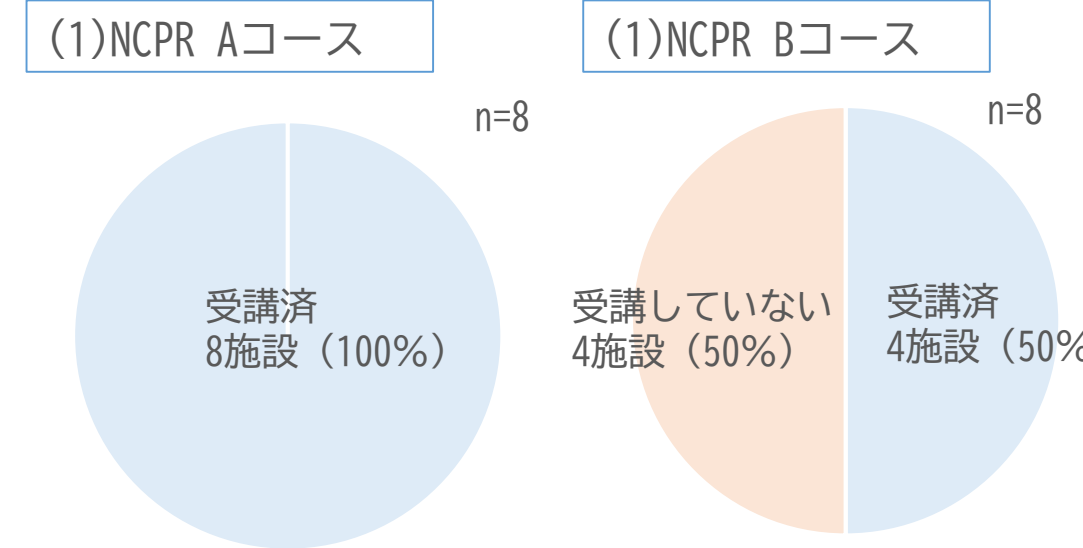
8 NCPR・J-CIMELSの受講状況（医師）

- NCPRを受講していない施設は半数
- J-CIMELSの硬膜外鎮痛急変対応コースを受講していない施設は3施設（37.5%）



8 NCPRの受講状況（助産師）

- NCPRのAコースは全ての施設で受講済み
- Bコースを受講していない施設は半数



※NCPR（新生児蘇生法）

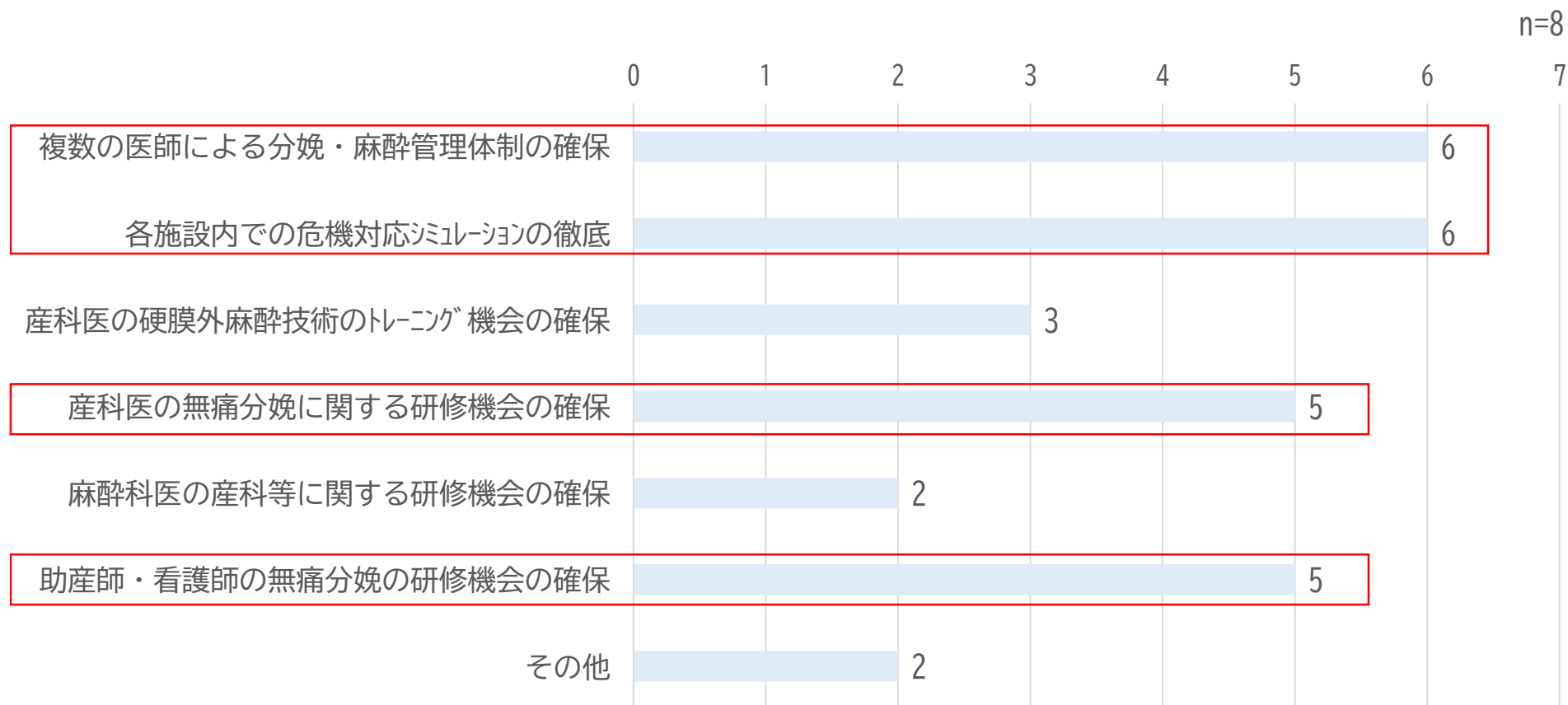
	内容
Aコース	気管挿管、薬物投与を含めた「臨床知識編」「実技編」で構成される高度な新生児蘇生法の習得
Bコース	気管挿管、薬物投与を除く「臨床知識編」「実技編」で構成される基本的な新生児蘇生法の習得

※J-CIMELS（日本母体救命システム協議会）

	内容
硬膜外鎮痛急変対応コース	無痛分娩に関わる医師が、母体急変の対応をシミュレーションを通して学ぶコース

9 安全性確保に必要な事項（複数回答）

- 「複数の医師による分娩・麻酔管理体制の確保」、「各施設内での危機シミュレーションの徹底」、「産科医の無痛分娩に関する研修機会の確保」、「助産師・看護師の無痛分娩の研修機会の確保」が必要と回答した施設が多かった



調査結果からみえた現状・課題

- 無痛分娩対応施設は全体の約3割
全分娩件数に占める無痛分娩の割合は5%
- 自主点検表の活用状況について、特に情報公開に関する項目の充足率が低かった
- 産科医や助産師・看護師の研修機会の確保を求める声が多く寄せられた

今後の施策

無痛分娩を希望する方が、安心して受けられる体制づくり

- 安全性確保のため無痛分娩に関する研修機会の提供
- 無痛分娩提供体制に関する情報公開の促進・周知